

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成28年8月12日 (2016.8.12)

【公表番号】特表2015-525268(P2015-525268A)

【公表日】平成27年9月3日 (2015.9.3)

【年通号数】公開・登録公報2015-055

【出願番号】特願2015-515416(P2015-515416)

【国際特許分類】

C 0 8 F 4/642 (2006.01)

C 0 8 F 10/00 (2006.01)

C 0 7 C 2/32 (2006.01)

C 0 7 C 11/02 (2006.01)

C 0 7 C 29/50 (2006.01)

C 0 7 C 31/125 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 4/642

C 0 8 F 10/00 5 1 0

C 0 7 C 2/32

C 0 7 C 11/02

C 0 7 C 29/50

C 0 7 C 31/125

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月14日 (2016.6.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

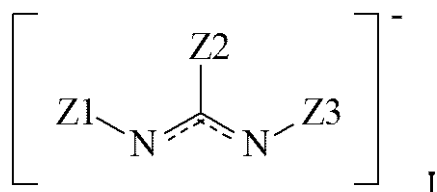
【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

a) 金属が T i、Z r または H f であり、金属毎に次の式からなる 1 つのリガンドを有し、前記リガンドが前記金属に結合している、触媒としての金属錯体であって、

【化 1】



Z 1、Z 2 および Z 3 は、独立して炭化水素部分またはヘテロ原子含有炭化水素部分であり、前記ヘテロ原子が Z 1 または Z 3 に存在する場合には前記ヘテロ原子は N 原子に直接隣接しておらず、Z 1、Z 2 および Z 3 は互いに独立して任意にそれぞれの他の 1 以上と連結している、金属錯体と、

b) 助触媒としての有機アルミニウム化合物と、

を含み、

前記助触媒に対する前記触媒の原子比は、前記組成物における、全ての A 1 および Z n

原子の合計に対する全ての Ti、Zr および Hf 原子の合計で、1 : 2000 から 1 : 1000000 (Ti、Zr および Hf 原子の合計 : Al および Zn 原子の合計) であり、

前記有機アルミニウム化合物は、C1 - C12 のトリヒドロカルビルアルミニウム、または、C1 - C12 のトリヒドロカルビルアルミニウムのメチルアルミノキサンとの混合物であり、

式 I はグアニダートであり、Z2 は、R1 および R2 が、互いに独立して、窒素、酸素およびケイ素から選択される 1 以上のヘテロ原子を任意に含む C1 - C40 の炭化水素部分である NR1R2 であるか、または、

式 I はアミジナートであり、Z1 および Z3 はジ - オルト置換芳香族部分であり、Z2 は、窒素、酸素およびケイ素から選択される 1 以上のヘテロ原子を任意に含む C1 - C40 の炭化水素部分である、触媒組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 17

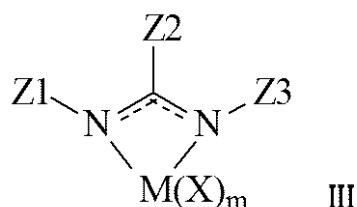
【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 17】

金属が Ti、Zr または Hf であり、次の式を有する金属錯体であって、

【化 3】



Z1 および Z3 は、互いに独立してジ - オルト置換芳香族部分であり、独立してそれぞれ炭化水素部分またはヘテロ原子含有炭化水素部分であり、前記ヘテロ原子が存在する場合には前記ヘテロ原子は N 原子に直接隣接しておらず、

Z2 は、炭化水素部分またはヘテロ原子含有炭化水素部分であり、

Z1、Z2 および Z3 は、互いに独立して、任意にそれぞれの他の 1 以上と連結しており、

M は、チタニウム、ジルコニウムまたはハフニウムであり、

X は、それぞれの m で独立して、ハロゲン好ましくは Cl、ヒドロカルビル好ましくは C1 - C4、ヒドリド、アルコキシド、任意に置換された アミド、および / または、テトラヒドロフランであり、

m は、1、2、3 または 4 である、金属錯体。